

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称：	大豆戸どろんこ保育園	種別：	認可保育園
代表者氏名：	施設長 引間 恵里	定員（利用人数）：	90（89）名
所在地：	222-0032 神奈川県横浜市港北区大豆戸町943		
TEL：	045-710-0906	ホームページ：	https://www.doronko.jp/
【施設・事業所の概要】			
開設年月日	2015年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人どろんこ会		
職員数	常勤職員： 16名	非常勤職員：	12名
専門職員	保育士 20名	栄養士	3名
	看護師 1名	調理員	1名
	用務員 1名	事務員	1名
施設・設備の概要	居室数： 保育室2室、遊戯室、調理室、事務室、園庭、調乳室、相談室、ロフト	設備等：	エレベーター、緊急車両用駐車場、テラス

③理念・基本方針

子育て理念は「にんげん力。育てます。」を掲げ、「にんげん力」を身につけるために必要な遊び・野外体験を提案実践し、『自分で考え、行動する思考』を育む。
 また、子育て理念の実践のために、子育て目標を2つ掲げており、子育て目標として①センス・オブ・ワンダーと②人対人コミュニケーションを掲げている。
 私たちの子育てとして、どの子ども、すべて実際に経験する。人を頼り、尋ね、自分で考え行動してゆくように導くということを主に、兄弟姉妹が共に暮らし、共に遊び、共に労働し、頼りあい、ぶつかり合い、手を差しのべあう。年齢の違う子同士、障害の有無に関係なく、どの子ども、やってみたいこと・思い通りにならないこと、すべて実際に経験している。
 私たちは、10より100のホンモノの経験の機会を子どもに用意し、『子ども自らが選択し、やってみる』の実現を目指している。

④施設・事業所の特徴的な取組

大豆戸どろんこ保育園は、0～5歳児を対象とした定員90名の認可保育園です。異年齢保育、やぎ・鶏の世話、畑仕事などさまざまな経験を通じて、子どもの主体性を尊重した保育を実践しています。園庭にはすべり台や大きな築山があり、子どもたちは体を思う存分動かして楽しんでいます。また、丈夫な足を育てるための「裸足保育」や「長距離散歩」など、子どもたちの体力づくりにも力を入れています。外遊びから活動の幅が広がるように、公園で拾ったどんぐりや葉っぱでの製作のほか、虫探しをした時には図鑑で調べるなど、工夫しながら保育を行っています。地域に向けての子育て支援活動については、「ちきんえっくだより」を発行し、ホームページや園の掲示板、店舗に掲示するほか、公園で知り合った親子にも配布するなど積極的に情報発信しています。また、泥遊びなどを行う「芸術学校・自然学校」、不要となった衣類の交換ができる「勝手籠」の園前設置、「子育てスキル講座」の開催など、保育所の社会資源を活用したさまざまな取り組みを行っています。そのほか、子どもたちが毎週訪問する「商店街ツアー」や月1回の「銭湯でお風呂の日」、毎月1回地域の親子と同じ公園で交流する「青空保育」など、地域交流の機会を多く持っています。職員は子どもたちの主体性を大切にしながら、異年齢の子どもたちと「生活・遊び・労働」を学び合う幅広い経験の場を設け、成長を支援しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年7月4日（契約日）～ 2023年3月15日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（ 2017 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆施設長は業務効率化を図り、職員の働きやすい環境を整備しています

職員の勤務状況については、統合人事管理システムで管理しています。同システムでは子どもの登園予約状況も確認できるため、職員のシフトと照合しながら施設長がシフト編成をしています。残業削減のために、必要に応じて施設長や主任がサポートに入るほか、職員の経験や実力を考慮したシフトとなっています。また、業務効率化に向けてICTを導入しましたが、ICTが苦手な職員の負担軽減に努め、詳しい職員がフォローできる体制を整えました。そのほか、有給休暇取得の際は職員間で共有できるカレンダーソフトに書き込むことで、書き込む時点で職員同士の配慮が行われ、不測な事態が発生してもシフト変更に応じられる体制となっています。

◆子どもたちが食事を楽しめるよう、さまざまな食育活動に取り組んでいます

食育年間計画を基に食育活動に力を入れています。季節ごとの行事食を提供するほか、園の畑で子どもたちが栽培した採り立てのきゅうりや、子どもたちの前で調理したなす炒めを提供するなど、食材を実際に見たり触れたりする機会を多く設けています。3～5歳児はバイキング形式を取り入れ、お皿への盛り付け方やトングの使い方などを知ることができます。また、園の玄関には「肉料理」「魚料理」「おやつ」など、たくさんのレシピを紹介するとともに、「今日の給食」「病気から守ってくれる」「ない力をつける」など、レシピを分類別に掲示し、子どもだけでなく保護者にもわかりやすく食事の情報を提供する工夫が施されています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

園の安全な環境整備や地域の発信などの保護者支援についての配慮不足のご意見もありましたが、子どもたちがのびのびと成長していることや自然に多く触れられている環境に満足しているご意見も見られました。安心と安全な環境の下、園の強みである子どもたちが食事を楽しむことを軸に、「季節ごとの行事食を提供する」「園の畑で採れた野菜を収穫する」など、様々な食育活動に力を入れていることを地域へ発信し、子どもを真ん中にした保育について語り合えるような環境を一つずつ丁寧に維持していきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり